



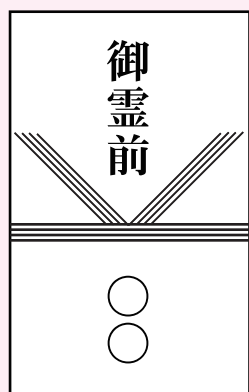
～お葬儀屋さんのひとりごと～

表書きに困ったら

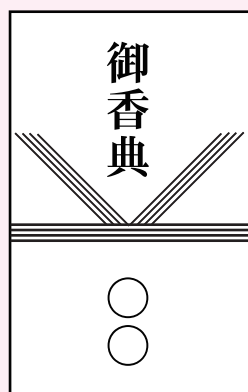
葬儀や法要、宗教儀礼、形式などによってお金を包んだりする時に表書きが一応決まっています。一応と書いたのは、これは絶対的な決まり事ではないからです。地域によっても違ったりすることがあるでしょうし、一概には言えません。ただ一般の人はそんなに頻繁にお葬式や法要があるわけではないので一般的なガイドラインとして紹介しておきますね。



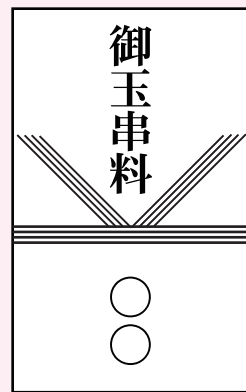
仏式（御霊前）



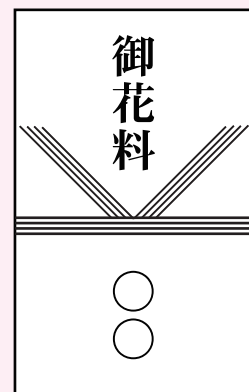
仏式（御香典）



神式（御玉串料）



キリスト教（御花料）



仏式（御霊前）・・・お葬式やお通夜で参列者がお金を包むときに使います。仏式、神式、他宗教の場合もOKです。参列するときに主催側の宗教宗派を確認する人はいないのでこれで包んで来ることが多いです。一番無難な表書きです。

仏式（御香典）・・・こちらでもOKです。こちらはあんまり売っていないので見ることは少ないですけど、仏式のお葬式の場合はこのように書きます。

神式（御玉串料）・・・宗教が神道のときはこのように書きます。お焼香ではなくて玉串を供えるのでこのように書きます。これもあんまり売っていません。水引は付いてないことの方が多いです。

キリスト教（御花料）・・・キリスト教のときはこのように書きます。お焼香ではなくて献花するのでこのように書きます。

その他の宗教者へのお礼

たまに、浄土真宗ではすぐに成仏するので、御霊前と書くのは間違いだと聞くこともあるかもしれませんが、家から御霊前の袋にお金を入れて名前まで書いていくので、その場ではどうしようもありませんよね。だからみんな気にせずに御霊前の袋を出しているみたいです。宗教的には浄土真宗やキリスト教では間違いかもしれませんが、事務レベル的、通俗的にはそれで通用しますので心配しないで出してもらってOKです。

それから、ちゃんとした水引（白黒の紐（ひも））の物と印刷してあるだけの物がありますが、お葬式の際は多数のお香典をあけて、お金を出して集計しなければならないので印刷の物でも構わないと思います。